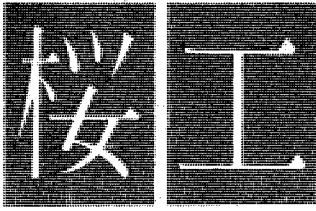


工 桜

1962-28

日本大学工科学友会



1 9 6 2

VOL. 7 No. 28

日本大学工科校友会誌

展開する70周年記念事業..... 4

○ えがかれる理工学部の未来図

■ 黒柳惣十博士にきく クスリ説法..... 8

◀クスリ・マニアへの戒め▶

■ 紋付おでん屋黒字倒産す11

○ ◀OB回顧録I よく学びよく騒ぎ.....▶

ア ホ 正直 小河吉之助 おじさん学生 亀井幸次郎
紋付とハカマ 中島 進 老更回想 落合 林吉
左膳と彼と 林 哲夫

■ 酒に想う田所俊夫...15

◀酒の起源から生理まで▶

最後の越冬隊.....長谷川貞雄...23

就職1年生の記録27

思い出にのこす集合教育期間 鮫島隆展
仕事の面白さを知り始める 荒井ミヨ

土木行政放言.....楠 宗 道...30

★工科校友会総会ひらく..... 32

★支部だより 電力中研支部総会 (34) 北海道支部桜工会総会 (34)
和服がいっぱいの謝恩会 (34) あきとし会 (36)

★学友短信 安部広君ら11氏 (36) 桜会会員の動向 (36) 学友逝く (36)

★学内報告 学生指導委員きまる (37) 浅田泉さんに総長賞 (37) 10先生
に奨励金 (37) 新卒100多就職 (37) ユースホステル研究会誕生 (37)
○ 稲田金次郎先生逝去 (37)

- 口絵 ただいま卒業中
歩くということは並たいていではないものです
- 表紙 南極越冬基地で 校友長谷川隊員の作業ぶり
(本文23ページ参照)

展開する70周年記念事業

— えがかれる理工学部の未来図 —

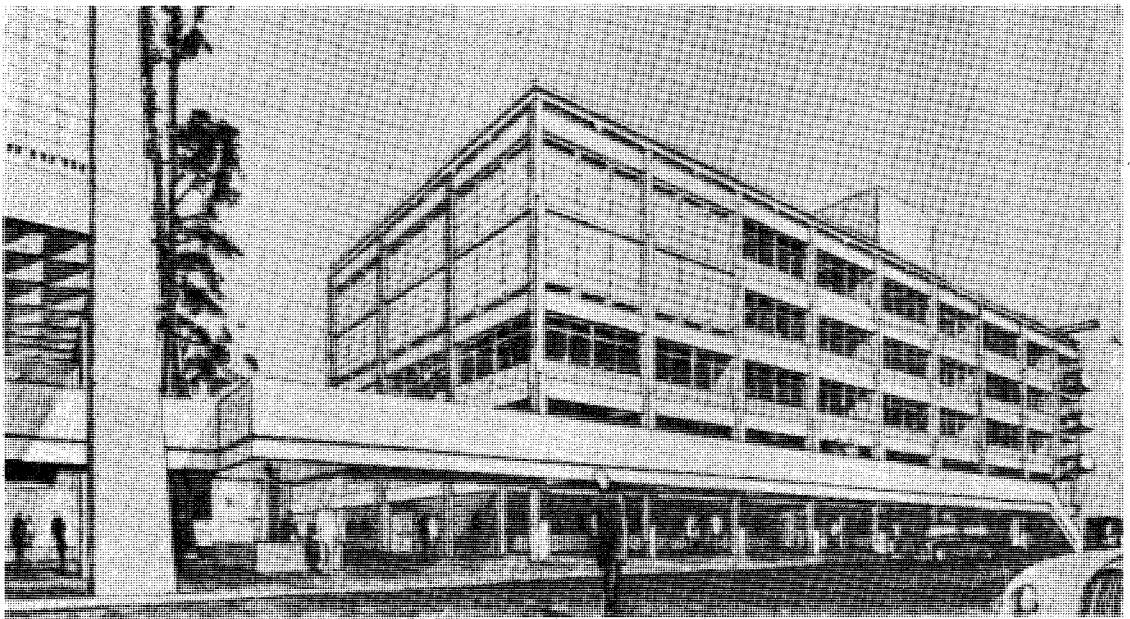
本学創立70周年記念事業がいよいよ展開された60億の予算を組み、各部の飛躍的充実をめざした計画がうち出され、理工学部には大きなウエイトがかけられている

記念事業の発想

1889年（明治22年）時の司法大臣山田顕義によって日本法律学校として誕生した日本大学は、さる34年10月で満70周年を迎えた。その時両国の日大講堂に天皇、皇后両陛下をお迎えして、わが国教育界未曾有の盛大な記念祝典をおこなったことは、まだ記憶に新しい。この時天皇陛下から「今後、さらに一致協力して学園の充実を図り、ますます文化の向上に寄与し、その使命達成に努力することを希望します」というお言葉をいただいた

のである。

このお言葉のご主旨にそうというばかりでなく、日大の国家社会に対する、教育、研究両面における責務は近年一そう重大なものになってきた。ことに技術革新によって企業の体質が改善されつつある今日、そしてまた、今秋からの貿易自由化に対するため、さらに技術の向上が呼ばれている時わが理工学部に対する質的、量的な要求は一だんと強まっているのであるが、そこで大学としては学園全体の施設の充実強化をはかるべく、70周年記念事業計画をたて、おし進めることになったのである。



理工学部7号館

桜 工 第 28 号

昭和年 6 月 20 日印刷

昭和年 6 月 25 日発行

編集兼
発行人 高 木 政 司

発行所 日本大学工科校友会

東京都千代田区神田駿河台 1 の 8

電話東京 (291) 3 3 5 1 (206)

振替東京 1 6 2 7 1 0 番

印刷 鉄鋼新聞印刷部